

当科病棟における血液培養陽性例の検討

坂井田 寛¹⁾ 松島佳子²⁾ 竹内万彦¹⁾

1) 三重大学大学院 医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

2) 三重大学医学部附属病院 細菌検査室

【はじめに】 当科では頭頸部領域の悪性腫瘍や重症感染症など全身状態が不良な症例が多く、種々の感染症から敗血症にいたることがあり、起炎菌の同定のために血液培養は重要である。

【目 的】 当科病棟での血液培養実施状況および血液培養陽性例について検討する。

【方 法】 2005年1月から2009年5月までの4年5ヵ月間に当科病棟で施行した血液培養検査を検討した。

【結果および考察】 血液培養を行ったのは168例で、この内19例が陽性であった。検出菌は、*Staphylococcus aureus* (MRSA) 6例, *Staphylococcus aureus* (MSSA) 2例, *Staphylococcus species*, coagulase negative (CNS) 1例, *Acinetobacter baumannii* 3例, *Klebsiella pneumoniae* 3例, *Serratia marcescens* 1例, *Escherichia coli* 1例, Gram-negative rods (糖非発酵菌) 同定不能 1例, *Candida parapsilosis* 1例であった。血液培養陽性例19例中、悪性腫瘍症例は16例で、非悪性腫瘍症例は3例であった。血液培養陽性例は全例とも全身性炎症反応症候群の診断基準を満たしていた。患者背景、危険因子などについて考察する。